

「～テクル」の表現価値

山西正子

キーワード：「心理重視のテクル」 主観的 動作主明示 焦点

要旨 本稿は、さまざまな「～テクル」形式のうち、「即座に相手は断ってきた」「2000年暮れ、日亜が企業機密漏洩で訴えてきた」のような、必ずしも、空間・時間の移動・経過を必要としない、受手の側に心理的な影響（ここでは「落胆し反発する／提訴されて困惑する」となる）が生ずる場合の用法を考察する。

その結果として、この用法に関する、山本裕子2000の「対抗関係にあるすなわちマイナス的な事態」、あるいは李廷玉2002の「迷惑」との評価は首肯するものの、一部に新たな状況が生じていることを確認し、その背景をも考えていく。

すなわち、最新の状況を見ると、必ずしも、「マイナス／迷惑」とも断定できない状況での用例が散見される。まずその事実を指摘したい。またその背景について、とりあえず二つの要因を仮定する。それは、①「断られる／訴えられる」などの、「～に～れる／られる」形式は、状況によっては「受身」とも「尊敬」とも受け取られ、曖昧であるために避けられやすいのではないか、②「動作主が～テクル」のかたちもあるが、これは動作主を「が」で明示し、その行為を受け手が直線的にあるいは意外性をもって受け止めたことを表現する形式といえるのではないか、の2点である。

「～テクル」形式は、しばしば、「太郎が走って来る」「地域で伝統行事を守って来た」「秋に郷里からリンゴを送ってくる」のように、空間・時間の移動・経過を必要とする。しかし冒頭に示した例のように、受け手の側の心理的な影響に視点がおかれる用法も多く、検討に値するものである。ここでは、これを必要に応じて「心理重視のテクル」として、考察を進める。

- 内容 0 問題のありか
- 1 用例と解釈
 - 2 マイナス以外の環境と「心理重視のテクル」
 - 3 「～テクル」形式に共通の自己中心性
 - 4 「が」に関わる問題
 - 5 まとめ

0 問題のありか——「～テクル」形式の表現価値

2004年5月、宇都宮市で発生した、警官と銃を持って立てこもった男性との銃撃戦事件に関する新聞報道は以下のごとくであった（一部省略）。

(1) 「向こうが先に撃ってきたのは現場を見ればわかる」

(容疑者の報道機関への発言 2004・5・20朝日新聞夕刊19面)

(2) (警察側は) 容疑者が立てこもり中に「先に県警から発砲した」と報道機関などに話したことについては「捜査員や住民の証言から、容疑者から先に発砲した」と全面否定した。

(2004・5・21日本経済新聞朝刊17面)

ともに「発砲する」という行為でありながら、容疑者は被害者の立場をとり「撃ってきた」と「～テクル」形式を使用している（ことになっている）。警察側は客観的に「発砲した」とするのみであった（ことになっている）。

ここに、「～テクル」形式の、中立ではない、何らかの表現価値を認めてよいだろう。

従来、稿者にとっての「心理重視のテクル」は、(1)のように、被害者の立場からの、相手の行為を非難する心情を表現するものであった。これは一般的理解でもあろう。

ところが、現時点で、それだけでは説明のつかない例があり、考察が必要であると考えに至った。

1 用例と解釈

11 一般的用例と解釈——「マイナス／迷惑」のケース

本稿で考察する、空間・時間の移動・経過を必要としない「心理重視のテクル」には、「要旨」に示したように「対抗関係にあるすなわちマイナス的な事態」や「迷惑」の側面をもつものが多い。実例で確認していく。引用は断らない限り「朝日新聞」により、夕刊のみ「夕」とする。一部省略を行った（以下同様）。

(3) 北朝鮮がどんな情報を提供してくるか、政府も予測がついていない。

(2004・5・20夕 1面)

解釈：北朝鮮との交渉において、政府は全面的には協調できず、一部では厳しい対抗姿勢をとっているため、「提供してくる」との表現は妥当であろう。

(4) (禁煙スペースで喫煙する者に向けて) 私が注意すると「吸殻が落ちているじゃないか。みんな吸っているから吸うのだ！」と言い返してきた。

(2004・5・16 16面)

解釈：社会正義を貫こうとする、75歳の投稿者には「迷惑／不快」な状況である。「言い返してくる」という表現は妥当であろう。なお、「言い返された」という受身の表現も可能であろうと考えられるので、再度、14で考察する。

(5) 「今後は社員がまとまっていけないと。堀江氏は何をしていくかわからない不気味さがある」

(2005・3・24 39面)

解釈：ライブドアのニッポン放送買収が現実となり、不安を募らせるニッポン放送社員が、

堀江氏の行為を「してくる」と受け止めるのは当然である。

12 中立的用法

しかし、そのほかにも、「対等／非密接」であれば単に行為の方向のみを示すことも、以前から存在しており、実例で確認していく。

- (6) (地震後の病死者については「災害死」と認定されないが) 家族は「地震と関係があるのではないか」として、市に問い合わせてきたという。 (2004・11・26夕 1面)

解釈：市役所が、市民の問い合わせを「対抗関係／迷惑」と意識することはない(はずである)。

ここでは、市役所と市民が、個人的関係をもたない、「対等／非密接」な状況にあるわけで、「市民から市役所へ」という、行為の方向のみを示すものであろう。商取引の契約書を交わす間柄や、家賃を払う入居者と家主などの密接な関係であれば、「契約を破棄する／家賃を上げる」は、行為の受け手からは「迷惑」の側面が強く意識される。したがって「契約を破棄してくる」「家賃を上げてくる」のように、「～テクル」形式が選択される。しかし、「対等／非密接」の状況であれば、行為の方向しか示さない「～テクル」形式もあると考えたい。なお、ここでは、「問い合わせ」に焦点を当てた、たとえば、「(病死者について) 家族からの問い合わせがあった」のような表現も可能であろうかと考えられるので、再度、32で考察する。

13 疑問例と解釈

最近の新聞に見られる、疑問例をいくつか示す。個人的な、いわば「顔の見える」関係でありながら、「マイナス／迷惑」と断言できない用例が散見されるので確認したい。

- (7) (給食時、旺盛な食欲を示す子のことについて、小学校の担任の先生が)「ご家庭で何かありましたか」と聞いてきた。 (2004・10・23 29面)

解釈：小学生の子を持つ母親の投稿である。母親はわが子の旺盛な食欲を肯定的にみていたが、それが担任には「いやしい」と映った。担任への不信感が「聞いてきた」の表現をさせたともいえるが、文章全体からはさほどの嫌悪感を感じられない。担任の質問に対する「驚き」を読み取りたい。稿者であれば、「先生に「ご家庭で何かありましたか」と聞かれた」とするところである。「聞かれた」との関連を、再度、14で考察する。

- (8) 古賀先生は弱音を吐くことを許さないんですよ。(厳しい指導は)それを「悔しい」って私が思うのを知っているから、言ってくるんだと思うんですけど。 (2004・11・30夕 17面)

解釈：柔道コーチの挑発的発言への敏感さの表れという側面はあろう。しかし、強い反発心があるとも考えられない。(7)の場合とともに、「先生」という立場の人の行為が、「マイナス／迷惑」の認識のもとに、「～テクル」形式で表現されることがあるのか、使用者の意図を考える必要がある。

- (9) 3年目、一方的だった会話が「どうだ?」と監督から聞いてくるようになった。

(2004・12・18 b2面)

解釈：プロ野球ヤクルト球団の野村元監督と古田捕手との関係を、古田捕手へのインタビューを基に、記者が再構成したものである。古田捕手の成長を認めた野村監督の行為を、古田捕手の側から「～テクル」形式で表現するものである。これが「対抗関係」や「迷惑」の要素を含むといえるのだろうか。(7)(8)と合わせて、この3例は、社会通念上、あえていえば、「上から下」への行為である。それを、仮に「マイナス/迷惑」と認識するなら、受け手側の強い嫌悪/反発を読み取る必要があるだろうが、稿者にはそこまでは読み取れない。

(7)(8)(9)については、話者自身が、動作主の「聞く(=質問する)」「言う」行為が話者に直線的に向っていることを、重く受け止めていることの表れと考えたい。いずれも、12に類似する、行為の方向性を強く意識した結果の「～テクル」であって、「先生/監督」の行為を、動作主体を明確にした上で、「直線的に迫るものとして重く受け止める」ものであり、「マイナス/迷惑」の側面はないと考える。

14 「～が聞いてくる」の例と解釈

以下、(10)から(14)まで、「～が聞いてきた」の例を示し、この事実を考察する。

(10) すると、おばあさんがいきなり私たちに「猫ちゃんたち、いないの?」と聞いてきました。

(2004・8・2 8面)

(11) 「韓国の人たちが日本人にすごく興味を持っていて、いろんなことを聞いてくる。」

(2004・10・27 2面)

(12) 小学5年生の娘が聞いてきた。「もしかして、サンタさんってお父さんのの」

(2004・12・15 14面)

(13) ドイツの友人がアウトバーンを運転中に、ときどき頭の上をよぎる陸橋を見て「あれなんだかわかるか」と聞いてきた。

(2005・1・21 14面)

(14) 中1の娘が「楽譜にenergico(エネルジコ)って書いてあるんだけど、どう弾けばいいの」と聞いてきた。

(2005・3・5 e2面)

解釈：稿者の理解では、「～が聞いてくる」は、しばしば、「～が どこかで何らかの情報を得て戻ってくる」場合の定型である。すなわち「私が受付で休業日を聞いてきます」「太郎が税務署で納税の期限を聞いてきた」「花子が絵画教室で聞いてきた話」のように使用する。

稿者の日常言語では、(10)から(14)までは、「おばあさん/韓国の人たち/小学5年生の娘/ドイツの友人/中1の娘に聞かれた」となる。端的に言えば、(10)～(14)は、「受身形式に通ずる」がそれを選ばなかった結果の「聞いてくる」である。

15 「～が尋ねてくる」の例と解釈

11の「～が聞いてくる」と同様、「～が尋ねてくる」も散見される。

(15) 中学2年のある日、顔を上げると周りに同級生が集り、「何を読んでいるの」と尋ねてきた。

(2004・6・2 12面)

(16) (携帯電話の着メロで赤ちゃんをあやす母親について)「えっ、こんなのだめよ」。テレビを見て思わず言った私に、隣にいた高校生の娘が「なに怒ってんの?」と尋ねてきた。

(2004・11・15 10面)

解釈：稿者の理解では、「～がたずねてくる」は、しばしば、「～が ある人物を頼って／住所を捜してやってくる」場合の定型で、漢字は「訪ねる」「尋ねる」の両者が考えられる。すなわち「10年ぶりに祖父が訪ねてくる」「見知らぬ人が私を尋ねてきた」のように使用するものである。

稿者の日常言語では、(15)(16)は、「私は同級生に尋ねられた」「私は高校生の娘に尋ねられた」となる。ここでは、「尋ねられた」が尊敬表現と解釈されることはないが、人物関係の把握が不正確であれば、助動詞「れる／られる」は、ときに複数の解釈を生ずる。

たとえば、受身表現を意図した「紳士は老婦人に道順を尋ねられた」において、人物関係の予備知識なしに、これを尊敬の表現でないと断言するのは困難である。「られる」のみならず、「に」もまた、受身表現の実質動作主体と「尋ねる」対象のいずれとも解釈できるからである。話者が、混乱防止のために、「～に～れる／られる」のような形式を避けようとすることは、十分に考えられる。

ここで、受身の「尋ねられた」を避け、「老婦人が紳士に道順を尋ねてきた」を選べば、「尋ねた」主体が明示され、質問が向けられた人物も明示される。

「～が尋ねてくる」は、「～が 質問相手に 尋ねる」を含意する、「質問相手X(しばしば話者である)」が省略された——それは書く必要がないほどの大前提であるから——、「話者あるいは話者サイド」に視点を置いた、人物関係にも混乱を生じない表現といえる。

「Aが Bに 尋ねる」は中立的な表現で、容易に受身のかたち書き換えられる(Aが Bに 道順を 尋ねた：Bが Aに 道順を 尋ねられた)。そして、ときに、「られ」が受身ではなく尊敬と解釈されて誤解を生ずる。

14と15の「～が聞いてくる」「～が尋ねてくる」は、ときには尊敬とも誤解されるおそれのある「～に聞かれる」「～に尋ねられる」のような受身形式を避け、「が」によって動作主を明示する表現といえる。

2 マイナス以外の環境と「心理重視のテクル」

21 心温まる場面の「テクル」

現時点で、話者に幸福感／安堵感を抱かせる「心理重視のテクル」がある。ここには、事態の展開に、意外さを感じつつも、決して困惑はしていない、心温まる思い が述べられる。

(17) 10年前のこと。夫が誘ってきた。「東海自然歩道という道が、大阪の箕面から東京の高尾山まで続いているんやけど、歩こうか」。 (2004・8・1 28面)

解釈：投稿者である52歳の妻は、この「誘い」を受け入れて徒歩旅行を楽しんだのであり、「迷惑」ではない。投稿文全体から夫に対する親愛の情が感じられ、「誘ってくれた」とあ

てもよいのではないかと考えられる。「初めは迷惑に思ったが」ということを含意していると考える必要はないだろう。

- (18) (沖縄で親切にしてくれた運転手にお礼を渡そうとしたとき) 運転手は「いりませんよ。小渕さんの話を聞かせていただいてありがたかった」と笑顔を返してきた——。

(2004・11・27 2面)

解釈：予想外の好意的な発言と笑顔に対しては、驚きと同時に、幸福感を抱かざるを得ない。

断じて「迷惑」などではない。

- (19) (朝の通学路で生徒に挨拶をし続けた教師にある朝) 普段うつむいて通り過ぎる男子が、小さな声で「おはよう」と返してきた。

(2005・2・9 33面)

解釈：「荒れる」学校の教師としては、報われた思いで、意外さに驚きつつも、幸福感あるいは安堵感を抱いたと考えられる。

22 憐憫の情と「心理重視のテクル」

話者が決定的優位に立ち、憐憫の情を抱かざるをえない状況での「心理重視のテクル」がある。(20)のような、優位に立った「挑戦を受けて立つ」側からの、優越感に基づく「～テクル」とは一線を画す用法である。重い受け止め方が感じとれる。

- (20) 「僕に対して、まっすぐで勝負してくる心意気がいい」

(巨人清原選手の、楽天一場投手評 2005・2・27 23面)

- (21) (寝たきりになった老犬について) 無心に見つめてくる白く濁った瞳に、涙がこぼれる。

(2004・11・14 29面)

解釈：「見つめられ」て、不快になるのではない。悲しく切ない思いが募るのである。困惑するという点ではマイナスともいえるが、「迷惑」でも「不快」でもない。「見つめてくる」は「私を見つめる」と同義であって、話者がその行為を重く受け止めた結果の表現と解釈できる。

- (22) (老犬の行く末を案じて) 引き取って面倒をみってくれる人はいるだろうか？つぶらな瞳でじゃれてくるきらら(注・犬名)の行く末を思うと暗くなる。

(2005・2・20 31面)

解釈：話者は全幅の信頼を得ていると思うからこそ、辛いのである。老犬の行為に不快感を持っているとは考えられない。「じゃれてくる」は「私にじゃれかかる」と同義で、単なる「じゃれる」ではない、犬の行為の方向を見定めた表現である。

- (23) (死んだ愛犬は) 中学2年の時、父と釣りに出かけた利根川で自分の横に座ってきた野良犬。

(2004・11・19 27面)

解釈：「自分の横に座ってくる」という表現はなじまない。稿者の日常言語では、「座ってくる」は何らかの理由——観光名所の習慣、ゲームのルールなど——があって指定された場所に座り、その「座った」という事実を確立した上で元の場所に戻ることである。(23)の「横に座ってくる」は、「横に座って親愛の情を示そうとする」の意味であろう。単に「横に座った/来た」のならば、偶然の結果ということもあり得るが、ここでは、話者はその心情を理

解し、飼うことにしたのである。話者は犬の行為を温かく受け入れており、「迷惑」ではない。犬の「飼ってもらいたい」との意図を重く受け止め、「横に座った」ではなく「横に座ってきた」と表現しているものと考ええる。

- (24) 孫は「お友達は45メートルを目標にしているけど、僕は75メートル泳げるまで続けたいんだ。3カ月ってどれぐらいのこと？」と質問してくる。私は…略…胸が熱くなる。

(2005・3・28 10面)

解釈：68歳の女性の投稿文。幼い孫が、友だちへの競争心を持ち、また母親の期待に応えられない申し訳なさを感じて（3カ月分の月謝が免除されるチャンスを願って）いることを知り、まさに「胸を熱くしている」のである。「迷惑」ではない、重く受け止めるべき事態と理解すべきであろう。

3 「～テクル」形式に共通の自己中心性

31 時間的方向と「～テクル」

時間の経過を必要とする事態の把握について、「～テクル」は、「～テイク」に比較すれば、はるかに自己中心的である。このことは、森田良行1968が、「～テイク」は「変化を見送る気持ち／客観的」であり、「～テクル」は「自己の受けとめ可能の意識／主観的」としている（以上要約）とおりでである。ただし、森田は「先行動詞の意味が「テイク／テクル」の選択を決めることもある」とし、「消滅の意をもつ動詞は～テイクである」とするが、例外もあることを付け加えたい。

作例 (25) 高齢になれば徐々に回復力が失われていきます。

作例 (26) 高齢になれば徐々に回復力が失われてきます。

作例(25)は医師の語る一般論であり、森田のいうように客観的である。回復力が低下するのは将来のことであるため、「～テイク」形式を使用する。作例(25)のあとには、「これは当然のことです」などが続き得る。

しかし、実際に回復力低下を感じ始めた中高年患者は、将来の事態であっても、これを直視し深刻に考える。むろん将来のことであるから「失われていく」もあり得るが、不都合な事態がわが身に迫ってくると認識すれば「失われてくる」と捉えることもあるだろう。作例(26)のあとには「先生、どうしたらいいですか」などが続き得る。

このほか、医師と患者の会話、人口減少を嘆く過疎地での会話などが様々に想定できる。

作例 (27) 半年ぐらいで手術跡が消えていきます。そのころもう一度診察に来てください。

作例 (28) では、半年後、手術跡が消えてきましたら、もう一度まいります。

作例(27)は医師の語る一般論であり、作例(28)は自身のことと強く意識した表現といえる。

作例 (29) 人口が減っていく地域に、県庁としては補助金は支出できません。

作例 (30) 今後も、人口が減ってくるのは避けられません。でも補助金の削減は困ります。

作例(29)は、県庁サイドの県政全体を見渡しての客観的発言、作例(30)は、村長の悲痛な発言と解

積できる。先行動詞の意味より、把握態度が客観的か主観的かのほうが優先される場合もなくはない。

なお、いうまでもないが、時間の経過を必要とする「～テクル」は、「心理重視のテクル」と異なり、プラスの状況下でもしばしば使用される。「記録が伸びてくる」の選手やコーチは喜ぶ（スポーツ評論家は「記録はまだまだ伸びていけよう」とも言う）。「注文が増えてくる」の生産者は喜ぶ（経済評論家は「優秀な製品への注文は今後も増えていけよう」とも言う）。したがって、一見、動作の方向を示すのみの「～テクル」にも、「主観性」が指摘できる余地はないか、検討しておきたい。

32 「～テクル」形式の主観性

31の考察に基づき、「心理重視のテクル」の主観性を確認しておく。

31の考察に従えば、「～テクル」形式の一つである、(1)(3)～(5)および(7)～(24)の「心理重視のテクル」には、「自己の受けとめ可能の意識／主観的」の側面があると類推できるのではないか。

ここで12に立ち返り、「～テクル」形式が、単なる客観的事実認識である「～がある」に比べて、いわゆる「インパクトのある」表現になることを確認したい。12に示した(6)は、「ある」を使用する、次の(6')としても、内容は変わらない。しかし、実際に被災者の声に接した市役所職員（の側）からは、単なる客観描写の「～があった」で済ませることはできず、重く受け止めた結果として、「～テクル」形式を選んだのであろう。「～テクル」形式は、対等の関係での、動作の方向性を示すのみの場合でも、主観性が強調されることがあると考えたい。

(6')（地震後の病死者については「災害死」と認定されないが）家族からは「地震と関係があるのではないか」として、市に問い合わせがあったという。

33 「～テクル」と「～テクレル」

いわゆる「迷惑の受身」と「～テクル」形式を対照してみる。

周知のごとく、日本語は恩恵／被害の授受を表現し分ける。間接受身は「迷惑」であり、恩恵であると意識すれば、「～テモラウ」を使用することになっている（太郎にケーキを食べられた：太郎にケーキを食べてもらった）。

「心理重視のテクル」は、主観的でなおかつ「迷惑」との受け止め方をすればあいの表現形式であった。李廷玉2002の指摘するように、主観的で「恩恵／幸運」との受け止め方をすれば、「～テクレル」が使用される。

この使い分けは、基本的には揺るがないが、(7)～(19)、(21)～(24)のように、「恩恵／幸運」ではないにせよ、断じて「迷惑」ではない状況で、「～テクル」が使用される例もある。「～テクル」の主観性が前面に出れば、「迷惑」か否かより、受け手が強く受け止めたか否かが優先されるのではないか。

4 「が」に関わる問題

41 現代語の「が」

心理重視の「～テクル」と格助詞「が」の関連を考察し、「が」によって動作主を明示しようとする、現代語の一傾向を確認したい。

「が」の古典的用法を知らなければ、「が」の代表的な用法は「動作主を表す」ことである。『明鏡国語辞典』（2002大修館書店）も第一に「その動作・作用の担い手を表す」としている。

その意識の延長で、かつて、「に」が使用された場面でも「が」が現れることがある。

(31) 私はすべての監督が、来季からはコーチボックスに立って指揮をしていただきたいと思う。
(毎日新聞 2001・10・30 4面)

(32) 現在、状況を調べる試掘をしており、公団が安心して使ってもらえるよう除去したい。
(2003・6・11 35面)

動作主を「が」で示そうとする傾向は否定できない。

42 「が」と「を」の置き換え

「が」の古典的用法を知らなくとも、現代語には、動作主の「が」ではない（接続助詞の「が」でもない）、「が」があることは、だれもが知っている。これらは、代替となるものがあるにもかかわらず、使用され続けている。

作例 (33) 太郎が好きなのです。

作例 (34) 花子が気にいっています。

これらの「が」が、決して動作主の「が」ではないことを文脈から離れて、明示するために、現代語でなされる方策の代表例は、以下のとおりである。

作例 (33') 太郎を好きなのです。

作例 (34') 花子を気にいっています。

このように、複数の有情物が関係する動詞のばあい、格助詞「を」を使用する方法もあるが、依然として「が」は健在で、最優先の存在＝話題の主に焦点を当てる機能をもつ。

43 「が」とモノゴト

上記41と異なり、有情物とモノゴトが関係する動詞のばあい、「が」はひたすら、文脈の中で焦点を明示しようとすることがある。動詞の自／他に関する一般的意識に抵触するような用法があるほどにまで、「が」の「焦点用法」は優勢である。

たとえば、有情物がモノを「売る」とき、有情物がモノゴトを「感じる」ときは、次の作例(35)作例(36)のかたちが一般的であろう。しかし、又平恵美子2001や、山西正子2004が指摘するように、(37)、(38)のようなかたちが散見されるにいたっている。

作例 (35) リンゴが売られている。

作例 (36) 空が青く感じられる。

(37) スーパーにはいろいろなものが売っているが、もっと大切な物も買うことができる場所なのかもしれない。 (2005・2・24 14面)

(38) 「あの時は食事に困り、2晩がとても長く感じた。…略…」

(アメリカのハリケーンについての松井稼頭央選手の談話 2004・11・2夕14面)

「いろいろなもの」が何かを「売る」はずはない。「経営者によって売られる」ことを、「売っている」としても誤解はないだろう。「が」によって「いろいろなもの」に焦点を当てたのだから、もはや受身の「売られている」を冗長なものとして、「売っている」とする選択も許容の範囲なのではないか。

また、「2晩」という時間そのものが何かを「感じる」はずはない。有情物が「感じる」のは自明で、「2晩が」として焦点を当てておき、受身とも自発ともつかない「感じられる」の「られ」を無視することもあるだろう。(37)(38)は、「売る／感じる」主体の有情物の存在には言及せず、モノゴトに視線を集中させた、いわば「焦点明示」の用法である。「売る」「感じる」は一般的には他動詞であるが、「売られている／感じとられる状態にある」意味の、自動詞のような用法も存在することになる。

このとき、他動詞「売る／感じる」の対象であった「いろいろなもの／2晩」は、「焦点」となり、「が」はこれらが「受身の状態」にあることを意味することになる。一般的通念では、「売る／感じる」は他動詞であるが、焦点を示す「が」はそれに抵触する。この用法の強さを認めざるを得ない。

ことに新聞見出しなど字数制限のある場面では、漢語動詞を中心に、自／他の通念に一致しない例は以前から多い。受身の「される」の省略例を示す。

(39) 埼玉県知事に土屋氏が再選 (1996・6・24 1面)

(40) 仲町台駅前に交番が設置 (1997・3・26 35面)

(41) 加茂前監督が更迭 (1997・11・17夕 1面)

これらの例については、「埼玉県知事に土屋氏再選される／交番設置される／更迭される」も可能である。1字のスペースをも惜しむのであろうが、「とにかく「が」で焦点を当てることで誤解は避けられる」との判断がされるのであろう。

44 「が」と有情物

43は焦点が「モノ／モノゴト」に移った例であるが、かつて「モノゴト」にあった焦点が、有情物の行為に移ることもある。「モノゴト」を自然発生と見るか、有情物の意識的行為の結果と見るかによって、「が」の位置が変わるのではないか。

山西・駒走2004の指摘する「分かる」のばあい、かつては「有情物にモノゴトが分かる」であったものが、現在、「有情物がモノゴトを分かる」も許容されている。

12で言及したように、「モノゴトがある」とするより、「有情物がモノゴトをおこなう」という表現方法の方が、緊迫感をもたらすばあいもあるのだろう。例を示す。

(42) 「なんでこんな重要なことを行政が分かっていなかったのか」 (2003・6・4夕 2面)

これはもはや、「誤用」ではないだろう。むしろ、「なんでこんな重要なことが行政にわかっていなかったのか」の方がなじみやすいとの判断もあるが。「行政が事態を理解する」という、有情物中心の意識が「行政が」に表れている。

5 まとめ——「心理重視のテクル」形式の変化

1と2で、最新の状況下で、いくつかの「心理重視のテクル」が、「マイナス／迷惑」のみで処理しきれないことを指摘した。また3で、「～テクル」形式の自己中心／主観的な側面を確認した。さらに4で、しばしば見られる「～が～テクル」は、現代語における「が」の優勢——動作主のみならず、その動作を受ける側を、状態主として表してしまうほどの勢い——の表れと考えた。

従来の「心理重視のテクル」は、動作主の行為を、もっぱら「マイナス／迷惑」なものと受け止めていたのである。したがって、最新の時点での、いくつかの用例を、例外として排除する判断もあるだろうが、ここでは、この形式が、若干の変化を示し始めたのではないかと考えたい。

「心理重視のテクル」は、「～テクル」形式の一員であり、その有情物の行為を、受け手が主観的に強く受け止めたことを表現できる。強く受け止められるべき行為は、「迷惑」ばかりではない。意外な喜びや感謝もある。また、より強い憐憫を伴うこともある。

また、ときに、動作主に「が」を使用することは、実質的な動作主を（たとえば「に」などによらず）「が」で明示し、あるいは「が」で焦点を明示しようとする、現代語にしばしば認められる意識の表れと考えたい。

最新の、必ずしも「マイナス／迷惑」ではない「心理重視のテクル」には、それなりの存在理由がある。「誤用」と判断しきれないものと考えている。

〔参考文献〕

- 又平恵美子2001「『イチゴが売っている』という表現」『筑波日本語研究』6 筑波大学大学院日本語学研究室
 森田 良行1968「『行く・来る』の用法」『国語学』75集 国語学会
 山西 正子2004「動詞『感じる』と格助詞」『目白大学人文学研究』第1号
 山西正子・駒走昭二2004「動詞『わかる』と格助詞」『目白大学人文学部紀要』第11号
 山本 裕子2000「『くる』の多義構造」『日本語教育』105号 日本語教育学会
 李 廷玉2002「『テクル』構文について」『STUDIUM』29 大阪外国語大学